

—JNMS のページ—

Journal of Nippon Medical School

Vol. 73, No. 4 (2006年8月発行)

Summary

Journal of Nippon Medical Schoolに掲載しました
Original論文の英文「Abstract」を日本医科大学医学会雑誌に和文「Summary」として著者自身が簡潔にまとめた
ものです。

**Endoscopic Video-Assisted Breast Surgery:
Procedures and Short-Term Results**

(J Nippon Med Sch 2006; 73: 193-202)

乳腺内視鏡手術：手術法と短期成績山下浩二¹ 清水一雄²¹日本医科大学武蔵小杉病院外科²日本医科大学外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門）

【背景】乳腺疾患に対する新しい内視鏡手術を考案した。
手術法による整容性と治療成績を報告する。

【方法】腋窩創2.5 cmを唯一の操作孔とし、吊り上げ法
により操作空間を確保した。ビデオ補助下に乳腺の部分ま
たは全体を切除した。悪性疾患の場合には、センチネルリ
ンパ節生検と腋窩リンパ節郭清（level I+II）を施行した。

【結果】2001年12月から2005年4月に、乳腺疾患患
者100名に乳腺内視鏡手術（VABS）を施行した。18名
は良性、82名は悪性。悪性のうち、80名は乳房温存術、2
名は皮下乳腺全摘術を施行した。手術時間、出血量、急性
期関連の血液検査では、VABSと従来式温存術との間に
有意差がなかった。切離断端は永久病理標本で全例陰性で
あった。傷は目立つ瘡痕を残さず、本来の乳房形状を温存
でき、満足度が良好であった。

【結語】VABSは手術選択肢として考慮でき、乳腺疾
患患者に美容上有利となる。

**Critical Roles of Capillary Endothelial Cells for
the Alveolar Remodeling in Nonspecific and Usual
Interstitial Pneumonias**

(J Nippon Med Sch 2006; 73: 203-213)

**非特異的（NSIP）と通常型（UIP）間質性肺炎の肺胞改
築における肺胞毛細血管内皮細胞の役割**立原章年^{1,2} 金 恩京² 松岡利明²ガジザデ・モハマッド² 吉野横一¹ 武村民子³トラヴィス・ウィリアム D⁴ 川並汪一²¹日本医科大学内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ内科部門）²日本医科大学老人病研究所病理部門³日本赤十字医療センター中央病院病理部門⁴ニューヨーク・メモリアルスローンケタリング癌研究所
病理部門

間質性肺炎の線維化に毛細血管内皮が関与する可能性を
検討した。UIP（通常型間質性肺炎）6例、NSIP（非特異
的間質性肺炎）4例と健常肺5例の生検組織に内皮マー
カーであるThrombomodulin (TM), von Willebrand
factor (vWF) 抗体を用いて蛍光抗体二重染色を施し、そ
れらの分布パターンと血管の3次元構造を観察した。また、
肺胞壁のVEGFとその受容体KDR, Flt-1 mRNA 発現
をRT-PCR法により測定し、組織レベルでアポトーシスの
出現を検索した。その結果、健常肺では肺胞毛細血管内
皮は細胞膜にそってTMを発現し、細胞質はvWF陰性で
VEGFとVEGFR mRNAは最も高度であった。UIPでは
TMが消失し細胞質にvWFを発現した。NSIP細胞浸潤
型の血管内皮はTMとvWFを同時に発現し、ドーナツ状
パターンを示した。単位長さの血管分枝数はNSIPが正常
の45%にUIPが22%に減少し、TUNEL陽性細胞は
NSIPで3.6倍UIPで4.3倍に増加した。VEGFと
KDR mRNA 発現はNSIP、UIPとも有意に低下した。NSIP
とUIPは血管内皮の細胞死が促進されて肺胞構造リモデ
リングがもたらされるとみさせる。